

「かあさんの家」でできること
—かあさんの家の創設者であり家族でもある市原美穂さんをお招きして—

申請者：NPO法人ホームホスピス秋田副理事長 中村順子

助成対象年度：2014年度前期

報告書提出年月日：2014年11月14日

I. はじめに

超高齢社会の秋田県において、最期まで自分らしく暮らすための場づくりとしてのホームホスピス開設に向けて 2014 年 8 月に NPO 法人ホームホスピス秋田が設立された。ホームホスピスを秋田でも、という思いで 2015 年春の開設を目指していく予定である。しかし、秋田県では介護が必要になったら施設、看取りは病院という考え方が根強く、自分の家ではないけれど家という場で、疑似家族と共に過ごして看取りまでいられる、というホームホスピスのような活動は全くと言っていいほど住民には知られていない。

そこで、このたび、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の「在宅看取りをテーマとした市民のつどい」に応募し、最初の啓発活動を行うことにした。演者には宮崎でホームホスピスカあさんの家」を始め、自身がその家族でもある市原美穂氏と、これからの地域包括ケアシステム構築に向けて、このような活動に対する厚労省のスタンスを聴くために保険局課長大島一博氏を招いた。幸い助成を受けることができ、無事に市民のつどいを開催することができたのでここに報告する。

II. 方法

1. 日時：2014 年 10 月 12 日 13 時～16 時まで
2. 場所：国立大学法人秋田大学 60 周年記念ホール（250 名収容可能）
3. 対象：広く市民や行政に広報活動を行った。ポスター、チラシ等の作成と配布、SNS を用いた宣伝等を行った・
4. 内容：
 - 1) 市原美穂氏による講演
 - 2) 大島一博氏による講演
 - 3) 市原氏、大島氏、中村（主催者）による鼎談

III. 結果

120 名の市民参加があり、熱心に講演を聴く姿が見られた。市原氏は講演の中で「かあさんの家」ができた経緯、「かあさんの家」のケアの実態、市民の意識や行政の支援、自身が母親を見送った娘としてホームホスピスにおける看取りで感じたことなどを語った。この講演会の中で流された DVD に涙する聴衆も多かった。

大島氏の講演は地域包括ケアシステムの概要、背景などから多様な看取りの場の必要性、ホームホスピスへの期待が語られた。

台風の影響で市原氏が鼎談途中で退出するというハプニングがあったが、三者による鼎談はこれからのケアの質の評価、多様な場の必要性などが語られ、質問も多く上がった。

会の終了後 NPO への会員参加申し込みも数名みられた。

IV. 終わりに

このたびの市民参加型講演会を機会に、秋田でもとも暮らしや多様な場での看取りにつ

いての関心が高まることを期待したい。地域包括ケアシステムの構築や市民が真にそこで幸せに暮らし、逝くためにはこれからもこのような機会による啓発活動が欠かせないと思われる。NPOの活動として、場づくりとサービスの提供のみならず、このような啓発活動や勉強会の位置づけが重要であると改めて感じさせられた。

この講演会は「公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団の助成」によって開催された。

感想

この度の講演会は演者の都合により 10 月 11 日に開催となったが、この期間秋田県では国民文化祭が開催されており、場所の確保や聴衆の参加人数の点で心配されていた。

しかし、幸い秋田大学の 60 周年記念ホールを借りることができたこと、事前の宣伝活動が功を奏したことにより期待を上回る参加人数があったことは大変喜ばしいことであった。

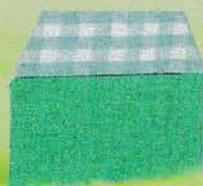
当 N P O はホームホスピスの開設を目指すために設立されたが実質的な活動はこの会が初めてであった。今回開催してみて、このような話を聞く機会を市民は求めていると強く感じた。大きな会でなくても、少人数対象でも細やかな啓発活動が重要であり、N P O はその企画を今後ももっとすべきであると思った次第である。

今のところ会員の会費にしか予算的な確保ができない中では、貴財団による助成は大変貴重であり、ありがたい。これからもぜひこのような市民活動への助成をお願いしたと思う。

NPO法人ホームホスピス秋田講演会

かあさんの家のケア・看取り

疑似家族とのとも暮らしを
自宅ではないもうひとつの家で



事前申し込み不要・参加費無料

●とき・ところ

2014年**10月12日**日
13時30分～16時(開場 13時)
秋田大学60周年記念ホール

13:30～14:15 **かあさんの家のケアと看取り**
—創始者として、家族として—

市原 美穂さん
「かあさんの家」創始者

14:15～15:00 **地域包括ケアシステムと**
かあさんの家の実践

大島 一博さん
厚労省保険局課長

15:00～ **市原さん、大島さん、中村による鼎談**
「かあさんの家が大事にしている
こと、高齢社会とかあさんの家」

～16:00 **フロアとの交流**

秋田大学 手形キャンパス
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

●ホームホスピス宮崎



【助成】公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 【主催】NPO法人ホームホスピス秋田

【お問合せ先】秋田大学大学院医学系研究科保険学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学専攻 中村順子

Tel: 018-884-6516 〒010-8543 秋田市市本道1-1-1



講師紹介



大島 一博さん 1964年2月熊本生まれ

現在 厚生労働省保険局総務課長

1987年4月 厚生省入省

2009年7月 老健局介護保険計画課長

2009年9月 内閣府大臣官房参事官

2012年9月 保険局保健課長



市原 美穂さん 1969年熊本女子大学卒業

現在 特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎理事長
「宮崎をホスピスに」プロジェクト代表
宮崎大学医学部非常勤講師など

1989年 ホームホスピス宮崎設立に参画

2004年 「ホームホスピスカあさんの家」開設

かあさんの家の活動は、2009年NHK総合テレビビューマンドキュメント「最期の家」、2011年テレビ朝日報道ステーションなどで全国に紹介される。

2006年 毎日介護賞アフラック賞（毎日新聞社）受賞

2008年 社会貢献者賞（公益財団法人社会貢献支援財団）受賞

2009年 新しい医療のかたち賞（医療の質・安全学会）受賞



一緒に考えてみましょう。「高齢化と看取り」、「地域での暮らし・生き方逝き方」、「共暮らし」ということを